



○最近のわが国経済を見ると、「アベノミクス」という言葉が世間に定着するなど、経済の動きに対する関心が高まっています。

○そこで、本レポートに紙上講座「5分でわかる経済統計の見方」を新設し、経済統計を見る上でのポイントをはじめ、活用方法等について時機を捉えて解説していきます。

○第1回目は「景気とは？」です。日本銀行（以下、日銀）は10月21日に「地域経済報告」を公表しました。この中で、中国地域は「緩やかに回復している」と評価されるなど、国内全9地域の景気判断が上方修正されました。

○今回は「地域経済報告」をベースに、景気判断のポイント（仕組み等）について解説します。

【表紙】日銀「地域経済報告」



## 1. 景気とは？

### 【ポイント】

- ・景気とは「経済活動の状態を総合的に評価したもの」

日々のニュース等で「景気」という言葉を頻繁に見聞きます。では、「景気」とは一体何でしょうか？

景気とは「経済活動の状態を総合的に評価」したものです。例えば、冒頭の部分で紹介した「中国地域は緩やかに回復している」という景気判断がまさにそれに該当します。では、そうした判断はどのように行われるのでしょうか？以下で日銀「地域経済報告」をベースに、その仕組みなどについて説明します。

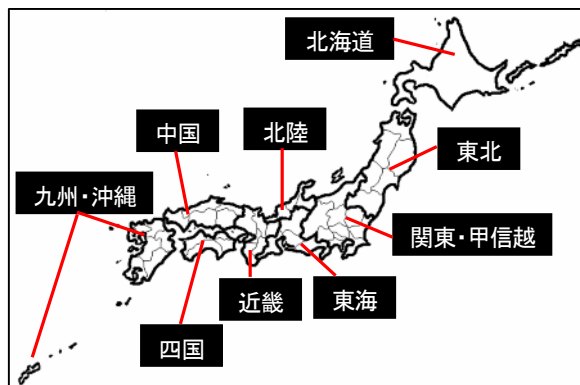
## 2. 景気判断の仕組み

### 【ポイント】

- ・地域経済報告は「地域経済の定期健診結果」

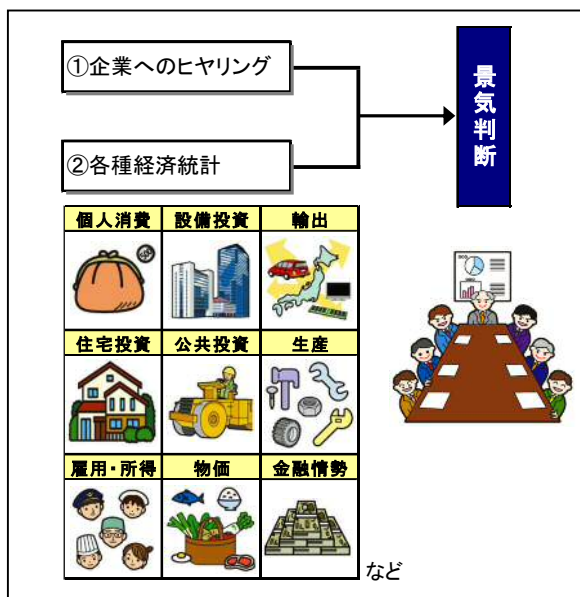
日銀「地域経済報告」の特徴としては、①全国を9地域に分割、②各地域の経済情勢について「企業へのヒヤリング」と「各種経済統計」をベースに3カ月ごとに点検、③点検結果を「景気判断」として年4回公表（1, 4, 7, 10月）、の3点が挙げられます（図表1, 2）。従って「地域経済報告」は、いわば「地域経済の定期健診結果」で、日銀HPから入手することができます（<http://www.boj.or.jp/>）。

図表1 「地域経済報告」での地域区分



資料：日銀「地域経済報告」から当所作成

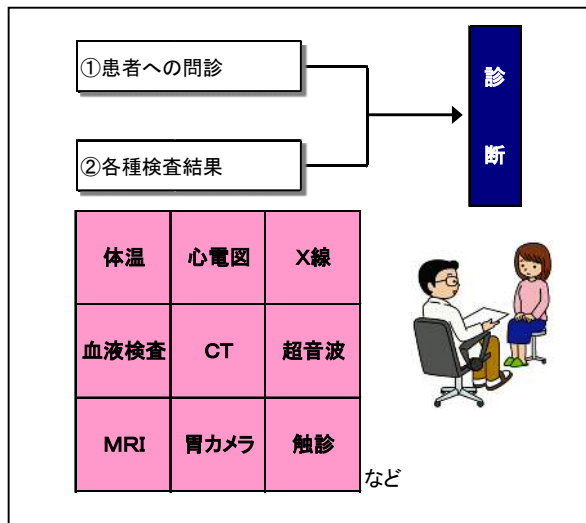
図表2 「地域経済報告」での景気判断根拠



資料：日銀「地域経済報告」などから当所作成

ちなみに、「地域経済報告」での景気判断を「医師による診断」に例えると、**図表3**のように表すことができます。

図表3 医師による診断



資料：当所作成

### 3. 景気判断の結果

#### 【ポイント】

- ・景気の評価は「文字で表現」

景気判断の結果は**図表4**に示すように、文字で評価されます。

今回の「地域経済報告」(10月)では、国内全9地域の景気判断が前回判断(7月)から上方修正されました。中国地域は①輸出や生産の持ち直し、②非製造業を中心とした設備投資の持ち直し、③公共

図表4 景気判断結果

地域名	前回判断 (2013年7月)	前回との比較	今回判断 (2013年10月)
北海道	持ち直している	↗	緩やかに回復しつつある
東北	回復しつつある	↗	回復している
北陸	持ち直している	↗	着実に持ち直している
関東甲信越	持ち直している	↗	緩やかに回復している
東海	持ち直している	↗	緩やかに回復している
近畿	緩やかに持ち直している	↗	緩やかに回復している
中国	全体として緩やかに持ち直している	↗	全体として緩やかに回復している
四国	持ち直しつつある	↗	緩やかに回復しつつある
九州・沖縄	持ち直している	↗	緩やかに回復している

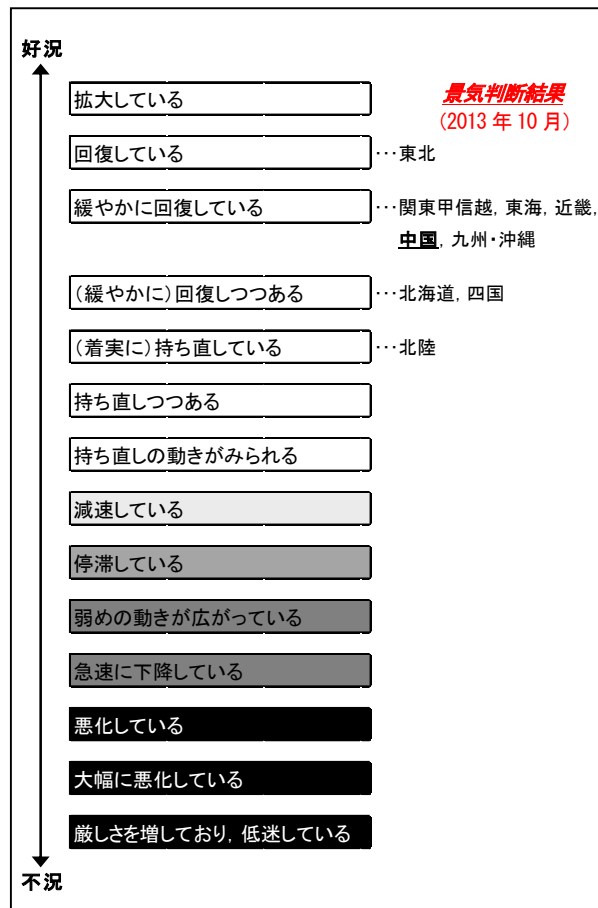
注：矢印は前回判断(2013年7月)との比較

資料：日銀「地域経済報告」

投資や住宅投資の増加、などを背景に「全体として緩やかに持ち直している」から「全体として緩やかに回復している」に評価が引き上げられました。

なお、景気判断の表現方法やよし悪しの度合いは**図表5**のように表すことができます。

図表5 景気判断の「表現方法」等



資料：日銀「地域経済報告」から当所作成

また、日銀以外にも内閣府、財務省、経済産業省が地域の景気判断に関する調査をそれぞれ実施し、公表しています(**図表6**)。1月は「全国財務局管内経済情勢」と「地域経済産業調査」が公表されます。

図表6 地域の景気に関する調査(日銀以外)

省庁名	調査名	公表時期
内閣府	地域経済動向	2, 5, 8, 11月
財務省	全国財務局管内経済情勢	1, 4, 7, 10月
経済産業省	地域経済産業調査	1, 4, 7, 10月

資料：各省庁HPから当所作成

本レポートに毎月掲載中の「経済情勢」も主要経済統計の動きや各種情報などを総合的に勘案し、景気動向をお伝えしています。

経済・産業調査担当 奥本 啓